

2年次コース・クラス及び科目選択について

教務部

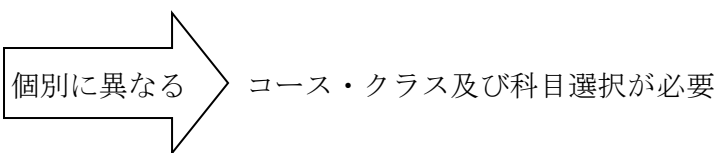
1. コース・クラス及び科目を選択する理由

本校入学後、1年生は芸術科目を除いて全員が共通の科目を学習します。それは、高校で学ぶべき基礎的・基本的内容をどの教科においても等しく身に付けてもらうためです。

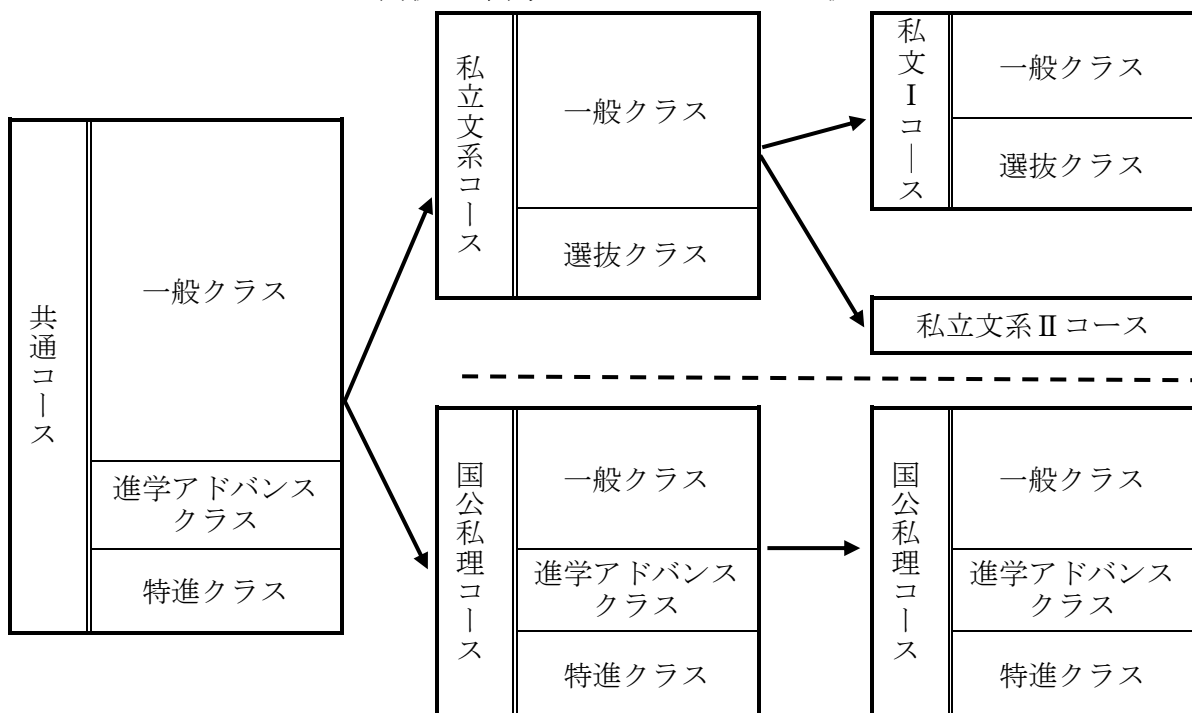
しかし、一人ひとりの興味・関心は多様であり、どのような分野の勉強をしたいか、あるいはどのような職業に就きたいのかなどは、人によって異なります。

そこで、2年次以降は自分の能力や適性を考慮しつつ、志望する進路の実現のために必要な知識を十分に習得し、効率よく学力向上を図るために、コース・クラス及び科目選択を行います。

- 自分の能力、適性、興味・関心
- 将来の進路に関する必要な知識
- 進路実現（受験）への対応



<高校3年間のコース・クラスの流れ>



- 2年次に選んだコースにより、3年次のコースが限定されるため、2年次のコース選択を慎重に行いましょう。



- 2年次からコースを選択することで、2年次から集中して進路実現（受験）に対応することができます。

2. コースの特徴

○私大文系コース

国公立・私大理系コースに比べ、日本史B・地理B、現代社会、コミュニケーション英語Ⅱの単位数が多く、文系科目に重点を置き履修するため、受験科目の少ない私立大学・短期大学・専門学校等の文系の学部・学科・コースに進む生徒に適しています。また、芸術科目を選択履修することができる（私文選抜は不可）ため、芸術分野での進学を考えている生徒にも適しています。3年次には、さらに文科系の私立四年制大学進学希望者を中心とする私大文系Ⅰコースと、短期大学・専門学校等に進学する生徒のための私大文系Ⅱコースに分かれます。

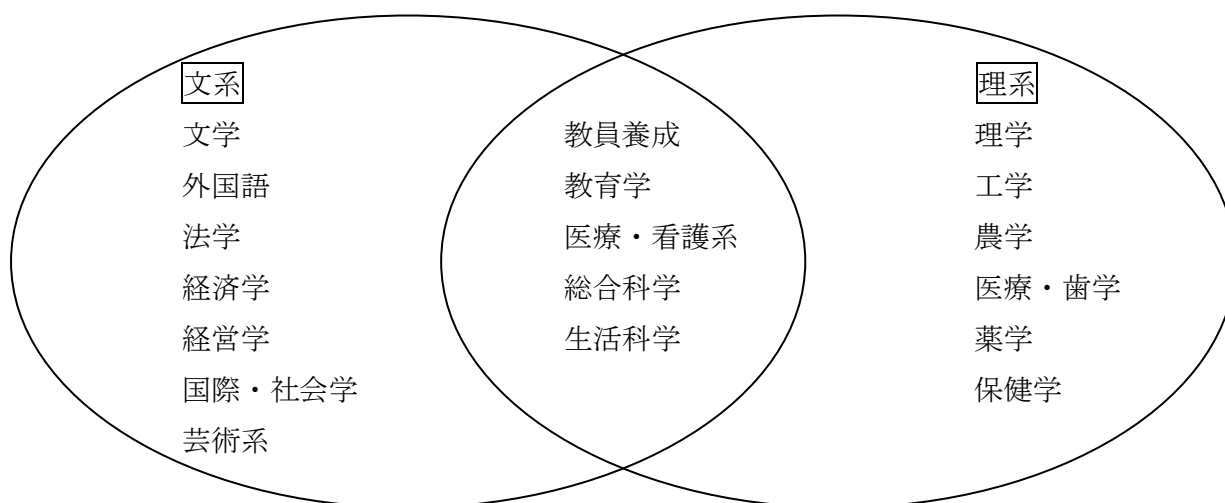
○国公立・私大理系コース

国公立・私大理系コースでは、物理・生物・化学の理科系科目を選択することができるため、1年次で履修した生物基礎・化学基礎や2年次で履修した物理基礎の内容をさらに深く学ぶことができます。さらに、数学Bが必修科目として設置されているので、理科系科目を重点的に学ぶことができます。また、文科系科目も幅広く履修することができるので、文理を問わず、受験科目の多い国公立大学や、私立大学の理科系の学部・学科・コースに進む生徒に適しています。3年次には、多くの選択科目群が用意され、個人の進路希望に合わせた科目を選択することができます。

※参考

コース選択について

【文系・理系の学問系統】



3. クラスの特徴

○特進クラスについて

- ① 特進クラスのねらい
 - ・国公立、難関私立大等の合格を目指し、徹底した指導を行ないます。
- ② 補習について
 - ・夏季休業中のサマースクールについては全員が参加候補者となるが、所属クラスにかかわらず模擬試験の成績上位 60 名が参加するものとします。
- ③ 模擬試験について
 - ・校内実力テストの他に、学校指定の模擬試験を年 4 回受験しなければなりません。
※令和 2 年度のみ、年 3 回となります。
- ④ 評価について
 - ・特進クラス以外のクラスと同一基準による評価を行います。
(特進クラスに入ったことで不利益が生じないように配慮します)
- ⑤ 選抜について
 - ・選択科目希望調査時に改めて特進クラスへの編入希望者を募集し、選抜を行います。
選抜は、1・2 学期の成績及び実力テストの成績で行います。

○進学アドバンスクラスについて

- ① 進学アドバンスクラスのねらい
 - ・国公立、難関私立大等の合格を目指し、特進クラスに準じた指導を行ないます。
- ② 補習について
 - ・夏季休業中のサマースクールについては全員が参加候補者となるが、所属クラスにかかわらず模擬試験の成績上位 60 名が参加するものとします。
- ③ 模擬試験について
 - ・校内実力テストの他に、学校指定の模擬試験を年 2 回受験しなければなりません。
- ④ 評価について
 - ・進学アドバンスクラスの評価は他のクラスと同一基準により行います。
(進学アドバンスクラスに入ったことで不利益が生じないように配慮します)
- ⑤ 選抜について
 - ・選択科目希望調査時に改めて進学アドバンスクラスへの編入希望者を募集し、選抜を行います。選抜は、1・2 学期の成績及び実力テストの成績で行います。

○ 2年次・3年次私文選抜クラスについて

① 2年次・3年次私文選抜クラスのねらい

・難関私立大学文系及び3教科型国公立大学等の合格を目指し、徹底した指導を行います。

② 模擬試験について

・校内実力テストの他に、学校指定の模擬試験を年2回受験しなければなりません。

③ 評価について

・評価等他の項目については、特進クラスに準ずることとします。

④ 選抜について

・選択科目希望調査時に私文選抜クラスへの編入希望者を募集し、選抜を行います。
選抜は、1・2学期の成績及び実力テストの成績で行います。

4. 2年次における選択科目の概要

(各教科担当者より)

科目名	学習目標	授業への心構え等
日本史B	わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。	授業では思考する態度を重んじ、できるだけ深く歴史的意義を掘り下げたい。また、大学受験も意識しつつ、問題解法の技術的側面についても随時ふれる。膨大な用語の解説に終始することを避けるため、家庭学習は不可欠。学期ごとの定期テストや小テストの結果、提出物・出欠席状況や授業態度等を勘案して評価する。
地理B	現代世界の地理的事象を系統地理的・地誌的に考察し、現代社会の地理的認識を養う。また、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。中学校社会科地理の学習内容をもとに、系統的・地誌的学習を通して社会事象の理解を深める。	授業に向けての予習を行い地理的専門用語の確認と、現代社会における出来事を新聞・テレビ等で知るとともに、発生した場所を地図帳で確認し地図帳に書き込む。白地図を丁寧に仕上げることで地理への興味・関心を持つ。毎日、地図帳を10分間位見ているいろいろな地名を覚える。
物理基礎	自然現象を科学的な目でとらえる能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的なものの見方考え方を育成する。	基本的な概念を把握し、問題練習を通してその理解を深めるように授業を行うので、受け身ではなく、積極的な態度で授業に参加すること。問題演習の復習を行うことで学習内容の定着を図ること。また、発展的な学習にも取り組むこと。
地学基礎	地学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。	日々変化する自然現象に興味・関心を持ち、授業内容と関連づけながら学習する。自らの『学習ノート』を作成し、必要なプリント等の保管もしっかりおこなうとともに実習等のレポートや自習課題などは必ず提出する。なお、テレビ等で放送される科学番組や新聞などを見て知識を得る。
化学	化学的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な理念や原理・法則の理解を深め、化学的な自然観を育成する。	1年次の内容の上に積み重なる内容になるため、1年次の内容をしっかり身につけるようにすることが大事。元素記号や化学式は知っており、「モル」の計算ができる前提で2年次の授業はスタートする。問題集などを活用しながら理解を深めておくとなおよい。
音楽Ⅱ	歌唱及び器楽を中心とした音楽の活動を通して、個性豊かな表現の能力を高め、音楽文化についての理解を深める。	音楽Ⅰの学習をもとに、更に音楽への理解を深め、自己の表現力の追求を目指しましょう。
美術Ⅱ	美術への関心を持ち、自己の発想や構想を大切にしながら、創造的な技能を高める。	授業で必要な持ち物等をしっかり準備し、意欲的に創作活動に取り組む。
書道Ⅱ	1年での基本的な学習から更に芸術性の高い古典作品の臨書や篆刻を通し、個性的な創作へとつなげる。	1年と同様、授業での取り組み方や作品提出について重視する。
英語表現Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な英文の構造が理解できること。 文法に基づく正しい英文を書けること。 自分の考えを簡潔な英語を使って表現できること。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業は、生徒の予習を前提として行うので、教科書の説明をよく読み、練習問題を必ず事前に解いてから授業に臨むこと。 授業時には、予習で不明だった点や間違えた点を確認する。 家庭での復習は必ず行い、授業で学習した内容の確認、もう一度問題を解くなどの反復練習をする。 授業で学習した事項の応用問題を解いてみる。

※参考

○国公立・私大理系コースでの3年次理科選択（「物理」と「生物」の選択）について

【物理・生物の学問系統】

系統	物理をとるべき学問	どちらでもよい	生物をとるべき学問
理学	数学、物理学、情報科学、天文学、気象学	化学、地学、総合化学	生物学、古生物学
工学	機械、電気、電子、通信、情報工学、建築・土木、環境工学、応用物理 材料工学、船舶、工業デザイン	応用化学、資源・エネルギー工学、経営工学	生物工学
農学	農業土木工学	農業化学、農業経済、総合農業	林業、畜産、水産、生物資源
医歯薬		歯学	医学、獣医、薬学
看護保健	診療放射線、臨床工学	臨床検査	看護、保健、理学療法・作業療法
生活科学		被服、住居、児童	栄養学、食物

(注) あくまで参考です。必ず自分で調べるようにして下さい。

5. 2年次・3年次のコース選択・科目選択について（全体流れ図）

別紙の資料を参照してください。

6. 選択にあたっての注意事項

別紙の資料を参照してください。

7. 全般的な留意点 (生徒向け)

○よく調べ、よく相談しよう

高校卒業後の進路選択は、中学卒業後→高校入学のように画一的ではありません。進学の場合、大学・短大、専門学校などの中にも多様な学部・学科・専攻に分かれており、入試制度も複雑で、取得できる資格やその後の就職に大きく影響を及ぼします。一方、就職の場合でも、様々な職種・就労条件・選考基準が設けられており、いずれにしても自分の人生を左右する重要な岐路に立つこととなります。したがって、将来の進路についてよく調べれば調べるほど、自分の可能性は広がることにつながります。そして、自分の人生に直結することは、決して他人任せにせず、自分で地道に調べるようにしましょう。

- ・どの学部・学科で自分のしたい勉強ができるか？
- ・どの学部・学科で自分の取得したい資格や受験資格が取れるか？
- ・この学部・学科は、どのような入試制度があり、受験科目は何か？
- ・この学部・学科に進学するためには、どの程度の学力が必要か？
- ・この学部・学科の受験費用や学費はいくらか？

また、進路指導室には、各学校の学校案内や募集要項をはじめ多くの資料・蔵書があるので、この機会にぜひ足を運んでみましょう。その際に、わからないことを進路担当教員に直接に質問して、最新情報を確認しておきましょう。さらに、家族をはじめ担任の先生などに相談して、十分な理解と同意を得た上で、互いに納得できる進路選択をするのが理想です。そうしておけば、もし進路実現の過程で困難に遭遇したとき、必ず親身になって明確な助言を与えてくれるでしょう。

○大切なこと

近年の経済動向や家庭の経済事情を考慮しての傾向であろうと考えられますが、県内の国公立大学志向が強まっています。埼玉県には埼玉大学と埼玉県立大学以外に国公立大学はないことにも留意すべきです。大学進学を志望する場合は、県外にも視野を広げておく必要があります。県内外を問わず、大学の研究をおきましょう。

定期考査や模擬試験の結果だけで判断したり、友人が行くから自分も…と考えたり、科目(勉強)の負担が軽いからなど、安易な気持ちで選択するのは避けましょう。コースを選択することは、自分の人生を方向づけることに等しいのです。現時点で進路をしっかりと展望し、その実現のために自分の適性や能力を総合的に判断して、コースや科目の選択を決断しましょう。

8. コース・科目選択に関する今後の日程

6月1日（月）5限

学年集会において科目選択の概略説明、科目選択登録用紙の配付

6月5日（金）16:30

科目選択登録用紙 提出一次〆切

6月8日（月）～12日（金）

二者面談にて科目選択について最終確認

6月20日（土）

科目選択登録用紙 提出最終〆切